

データウェアハウスソリューションとその適用効果の実際

安藤隆朗* 森田 登*
郡 光則** 三浦 隆*
東 辰輔**

要 旨

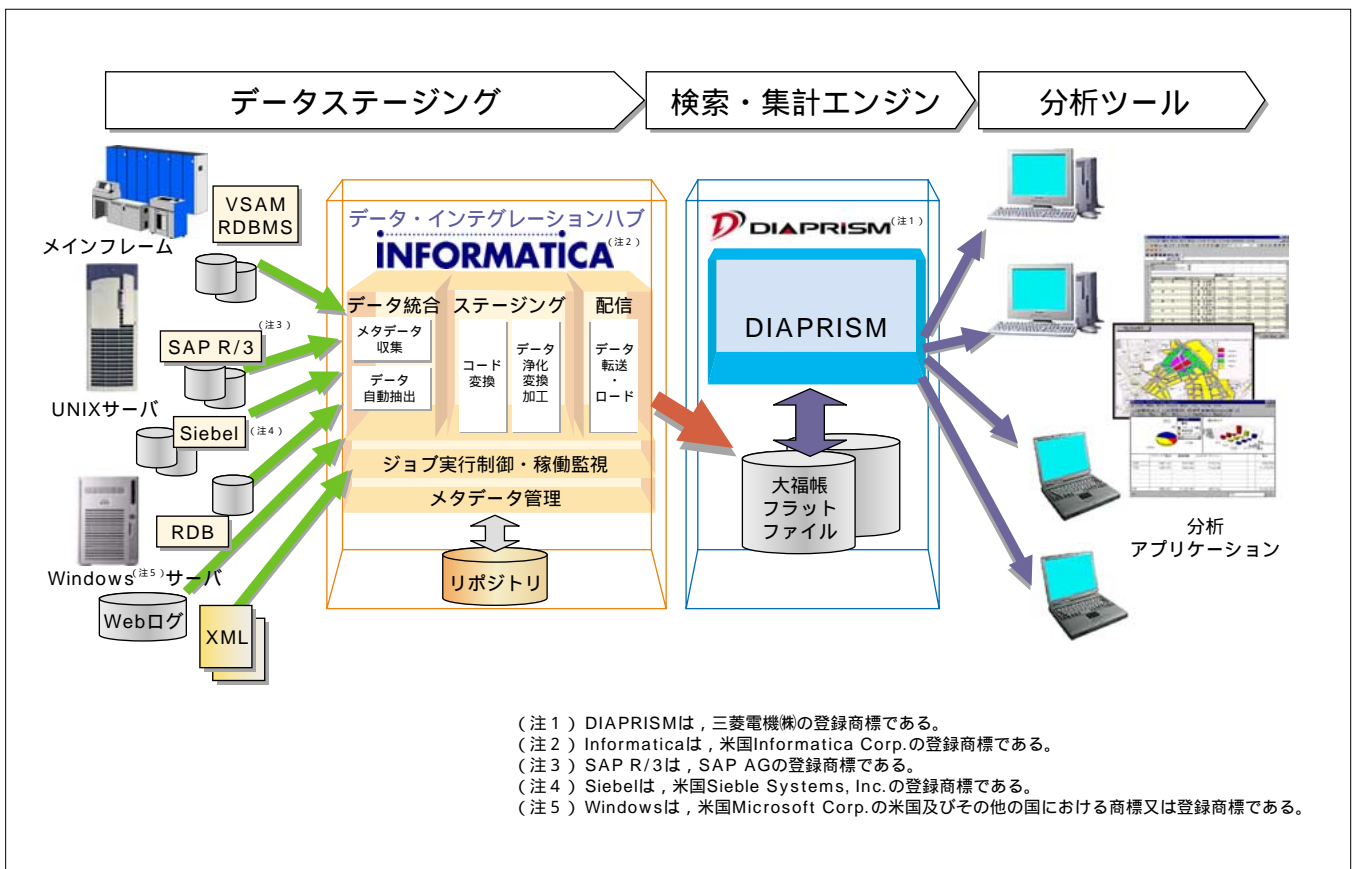
昨今の経営環境は変化の速度を日増しに速め、ますます厳しいものとなってきている。激化する企業間競争を勝ち抜くためには、経営者が企業の状態を正確かつタイムリーに把握し、価値ある経営戦略を導き出すことが求められている。そうしたニーズに対して、全社的なデータウェアハウスの活用が注目されている。

データウェアハウスとは、従来の業務別に存在した企業内データを、目的別に統合して管理蓄積し、分析業務に用いるためのデータベースである。最近のインターネットの普及により、分析対象となるデータ規模は飛躍的に拡大し、データウェアハウスは大規模・高速処理が求められるようになってきている。

三菱データ・インテグレーションハブは、散在する種々のデータソースを統合し、大規模なデータウェアハウスの構

築を容易にするツールである。分析サーバ“DIAPRISM^(注1)”は、大容量データに対して、高速な検索・集計機能を提供し、スケーラブルなデータウェアハウスの構築を可能にする。これらの基幹製品の活用により、これまでのビジネスを拡大していく新たなシステムの構築が可能となった。

今後のデータウェアハウスにとって、データの更なる大容量化への対応と分析の高機能化及び高速化が重要な要素となる。DIAPRISM技術を発展させた並列情報検索機能、文書検索、データマイニング技術を用いることで、問題点の洗い出し、新たな経営戦略の立案に必要な新たな知見を得ることができる。リコメンデーションエンジンを用いると、分析だけでなく、その結果に基づいた予測を行い、更なる効果的な経営戦略も提案することができる。



DIAPRISMとデータ・インテグレーションハブを利用した全社規模のデータウェアハウスシステム

広範囲に蓄積された異なる形式のデータを抽出し、必要に応じて加工を施して統合し、DIAPRISMにより膨大なデータを超高速に分析する。